



↑アスファルトのすき間から芽を出し、児童たちより大きく成長したヒマワリ

★ 国道にど根性ヒマワリ発芽 児童が見守り続けて成長

7月の中旬ごろから唐隈の立原洋一さん宅前の国道389号に“ど根性ヒマワリ”が1本生え、地域住民や通りかかるドライバーの目を引いていました。

歩道のアスファルトのすき間から芽を出し、力強く成長しているこのヒマワリは、唐隈から城川内小学校に通う児童たちが、毎日の登下校時に、折られたり、抜かれたりしないよう見守り続けてきました。

終業式があった7月17日、児童たちが集団登校で横切ると、ヒマワリは児童たちより大きい約1.5mほどの高さとなって、1輪の黄色い花を咲かせていました。

同校5年の向江早登君は「花が好きなので、もっともっと大きくなってほしい」とさらなる成長を期待していました。

★ 蔵之元の定置網漁 南方系のウミウシを発見

7月22日、蔵之元の岩崎清志さんが定置網漁をしているとき、小さくて色鮮やかな生物を見つけました。この生物は、シンデレラウミウシの一種と推測され、長さ約2cmほどの大きさです。南方系の同種は、日本では沖縄近辺でよく確認されます。

発見者の岩崎さんは「40年近く漁をしていて初めて見た。きれいな生物が増えるのはいいが、長島の海が変わっていくのは心配だ」と自然環境の変化を危惧していました。



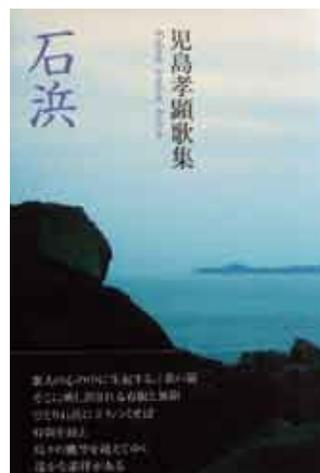
↑岩崎さんが漁で見つけたウミウシ

★ 町立図書館に寄贈 一周忌に第4歌集を出版

長島短歌会を創立し、県芸術文化奨励賞や南日本文化賞などを受賞された故児島孝顯さんの歌集「石浜」が、一周忌となる7月10日に出版され、夫人の文子さんが指江と鷹巣の町立図書館に寄贈されました。

生前、3つの歌集を出版されている児島さんが第3歌集『荒崎の鶴』のあとに作られた歌は、約900首あるそうです。文子さんは児島さんの生前の歌友に相談し「これらの作品を出版することが一番の供養になる」と第4歌集を出版されました。

児島さんは、旧長島町文化協会長や町議会議員なども歴任され、芸術文化の振興に多大な貢献をされました。



↑児島さんの第4歌集『石浜』